

## 第5回 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会 議事録

日 時：平成23年11月29日（火） 15時00分～16時40分

場 所：秋田市役所議場棟 第3、4委員会室

委員の定数：9人

出席委員：7人

### 1. 開会

### 2. 秋田市福祉保健部長あいさつ

### 3. 議事

#### (1) 秋田市エイジフレンドリーシティフォーラムについて

資料をもとに、事務局から9月24日に開催したエイジフレンドリーシティフォーラムについて報告を行った。

委員 基調講演では、高齢者を対象にした産業やものづくりが今後必須であるとの話があった。高齢者が積極的に街に出る仕組みづくりや、それらのを応援していくことはエイジフレンドリーの実現につながると感じた。

委員 「個人の尊厳が最後まで保たれる、つまり個人が社会から必要とされ、個人が必要とする支えが社会からきちんとあるようにしなければならない。」という話や、高齢者がいきいきと合唱している姿に、まさにこれがエイジフレンドリーシティだなと感じた。高齢者にもっと表舞台に出てもらい、交流が生まれるようにする必要がある。

会長 私も基調講演を聞いた。年金支給開始年齢の引き上げはちょっと難しい話題だったが、「職業人として、家庭人として、社会人としてのエイジフリー」という話は、全体的にわかりやすかった。

フォーラムでは、団体間など何か交流は見られたのか。

事務局 各ブース運営については、多くの団体から協力を得たが、交流まではいかなかった。また、基調講演や映画は、来場者が終わるとすぐに帰るという動きも見られたので、いかに人の流れを作るかが課題だ。

会長 フォーラムは来年度も開催するのか。

事務局 まだ確定していないが開催を予定している。

委員 出演した団体に、来場者が連絡を取れるような工夫はできないか。

事務局	展示ブースでは、日傘づくり教室のチラシを希望者に渡したと聞いているが、今回は主催者側でも一覧を作成するなど工夫したい。
委員	基調講演には定員を上回る応募があったとの説明だが、当日は空席も見られた。客席は多めに準備していたのか。
事務局	一般申込者で定員の250名を受け付けたほか、市議会議員や市で設置する福祉関係の審議会等委員にも案内を出し、250よりも多く席を準備したため空席が見られた。次回の参考とする。
会長	前回の協議会では、ブースへの出店には駐車場問題があり断念したという声もあった。
事務局	搬入搬出関係者用駐車場があり無料で利用できるが、高齢者にとって距離があり遠いというお話だった。
会長	建物に直結した有料立体駐車場もあるので、出演者などには駐車券を配るなどの配慮を検討してほしい。

## (2) 国際高齢者団体連盟（IFA）招聘事業について

資料をもとに、事務局から11月18日から20日まで開催した国際高齢者団体連盟（IFA）招聘事業について報告を行った。

会長	19日のアセスメントに参加した3名の委員から発言をお願いします。
委員	講師のジェーン・バラットさんからは、良い点をきちんと評価し情報発信する重要性を学んだ。秋田にいと、当たり前と思うこともカナダではそうでないことも知った。秋田の高齢者にもエイジフレンドリーな点を整理し、きちんと伝える必要がある。また「課題は何にでも必ずある。」という意見には、いいところをきちんと認識しつつ悪いところを直していきましょうという考え方を、世界のトップに立つ人はするのだなと印象に残った。
委員	「もっと良いまちにするためにどこを改善したらよいか。」という問いには具体的な提案はなく、むしろ世界中の都市を見てきたジェーンさんから見て、秋田には他国で見られないエイジフレンドリーな点が多くあるようだった（工事現場の案内ガードマン、自動ドアの普及率の高さなど）。広小路通りは、片方が公園に面していて、にぎわいを生み出すには残念と感じていたが、ジェーンさんから「自然と商店

街が調和してすばらしい。」と意見をもらい、自慢できる点だと気づいた。社会参加や雇用、地域社会の支援などソフト部分については、時間の関係もあり聞けなかったのが残念だ。

委員 まち歩きで、駄目な点を多く指摘されるのでは？と思ったが、良いところを大事にする、集約して発信する、より多くの人々に知ってもらうことを教えられた。例えば、高齢者コインバス事業についても、ただPRするだけでなく、外出することで高齢者は刺激を受け、街に人が出て活性化する点なども合わせてPRすることが大切と感じた。自分なりに他の良い点について考えたら、秋田は人とのつながりが強く成年後見人制度の活用率が低いこと、65歳まで働いている人の割合が多く全国で第2位という点を見つけ、これらも秋田のよい点としてPRできるのではと思った。

会長 職員向けワークショップはどういう内容だったのか。

事務局 担当者が参加し、エイジフレンドリーな点とそうでない点について、事例を交えながらジェーンさんから講義を受けた。また、エイジフレンドリーシティの基本的な考えやグローバルネットワークの仕組みについても話を聞いた。情報をきちんと整理してプロモーションすること、推進は利害関係者（stakeholder）とともに進め、ビジネスも巻き込む必要があるという話が参考となった。

### （3）WHOグローバルネットワークへの参加の報告について

資料をもとに、事務局から11月20日におこなった参加表明式と、グローバルネットワークについて報告を行った。

会長 サイクルは5年で、2年間で行動計画策定、3～5年目で実行の理解でよいか。

事務局 その通りである。

会長 2年間計画策定の間は具体的な動きはなくなるのか。

事務局 既に市の総合計画の成長戦略に位置づけ、具体的な重点事業を推進しており、2年間取組がストップするものではない。

福祉保健部長 行動計画に介護保険制度金など国の制度や取組を含めても良いのか。

委員 今後、計画のボリュームや盛り込むべき内容などについて、WHO

から情報を得る必要があるので、合わせて確認する。

福祉保健部長 WHOからの支援の一つに「先進地事例との情報交換を活発にする」がある。日本の介護保険制度は世界に発信したい制度だ。

会長 総合計画の成長戦略として各事業を進めることと、グローバルネットワークの行動計画の位置関係が見えづらいため、協議会でどのような議論を進めるべきかがわからない。エイジフレンドリーシティにはいろいろな分野が関わるが、WHOに提出する計画にはすべての概念を束ねるのか、それとも進行管理のツールになるのか。推進協議会が関わっていくには、これらの整理をしてほしい。

事務局 WHOは行動計画策定に高齢者の参加を重要視しており、これは、市民活動的な形を意図していると予想される。高齢者の参加の仕方などについて議論していただきたい。

委員 今の話は重要なポイントだ。この推進協議会についての意見でもあるが、フォーラムやIFA招聘など様々な事業は良いが、すべて決まってから報告される形ではなく、内容を検討する段階から参加したいと常々思っていた。困難な面もあると思うが、計画策定時に高齢者がどのような形で関われるのかは関心がある。

会長 それは参加時期、タイミングの話ではないか。つまり、何もない段階からの参加か、一定のたたき台が出てきたところでの参加か、それとも市として事業実施が意志決定された後での参加かという話だ。フォーラムについては、来年度の内容はまだ漠としているので、推進協議会で意見を述べ参加できるのだなと私は感じている。

委員 確かにタイミングの問題だ。一つひとつに良い悪いと意見するのではなく、アイデアや意見を早い段階から議論できる場があれば、参画したという気持ちになることができる。これは重要なポイントだ。

会長 早いタイミングであれば、「こうしてほしい、ああしてほしい。」と言う意見ではなく「自分たちはこうした参加ができる。自分たちのネットワークは、この部分を担うことができる。」といった主体的な関わりができる。今後ぜひタイミングと関わり方、関わる対象の範囲について事務局で議論していただきたい。あるいはこの場で議論していくことも必要だろう。

事務局 フォーラムもIFA招聘事業も限られた時間の中で進め、協議会に

諮るタイミングを逸した点をご了解いただきたい。

委員 フォーラムの今後の課題として「進行スケジュールと実施内容について、よりわかりやすい情報提供のため工夫が必要」や「エイジフレンドリーシティをより理解してもらうため、実施内容の工夫が必要」とあるが、こういった点から感じたのか。

事務局 きらめき広場には、脳年齢判定や高齢者疑似体験などの体験コーナーもあったが、来場者から「知らなかった。」と言う声も聞かれ、もっとわかりやすく内容を伝える必要があると感じた。啓発については、講演会でジェーン・バラットさんが、写真を使い、エイジフレンドリーな点を具体的に解説した。理解を深めるためのヒントがあり、次回にはもっとわかりやすい啓発を工夫したいと考えている。

委員 フォーラムや講演会参加者の地域傾向は把握しているか。

事務局 フォーラムではアンケートを実施したが、地域集計はとっていない。

委員 河辺、雄和などには、交通手段を持たず参加できない高齢者もいる。地域ごとでの実施なども検討してほしい。

委員 ジェーンさんが具体的に挙げたエイジフレンドリーな点は、何らかの形で活かしてほしい。悪いところはいくらかでも挙げられるものだが、プラスな点を次につなげていく活動が大切で、活用するべきだ。

福祉保健部長 個人的な意見だが、菅原委員が立ち上げているブログなどは、とても良い情報発信になっていると思う。今後は推進協議会でブログを立ち上げてほしい。

委員 ジェーンさんからは「秋田でエイジフレンドリーができていないのは、相手を思いやる気持ちが強いからではないか。」との話も出た。高齢者を思いやる気持ち、尊厳を尊重する気持ちでエイジフレンドリーシティが実現されるのだと思う。その点をうまくPRし、市民の気運を高めることも必要なのではないか。

委員 今回のジェーンさんからの話を参考に、良いところを見て市民の意識を育てることが大事だ。

会長 他になれば、次回開催について事務局から説明してほしい。

事務局 年度内にもう1回開催予定である。次年度予算のうちエイジフレンドリーシティの推進に関わる事業について、方向性をご説明したい。他に、年度内に啓発用パンフレットの作成も予定しているため議事としてあげる予定である。

会長 次回は、パンフレットのたたきが出てくるということか。

事務局 その予定である。

会長 先ほどの議論も踏まえ、できるだけ早い段階で提案や意見を反映できるようにした方が良い。今日は議論することはできないが、委員も提案がある場合は直接事務局に伝えてほしい。

委員 パンフレットの使い方は、どのように考えているか。

事務局 先日の講演会で挙げられたエイジフレンドリーな点を、より広く市民に啓発していく必要がある。概念をより広めるために活用したい。

委員 いろいろな場所におき、市民が自由に手にできる形になるのか。

事務局 そう考えている。

会長 日本では当たり前のことが海外ではそうでないという話をうまく取り入れたらどうか。つまりいい点と悪い点の両方がパンフレットにあると「ああやっぱりここはダメなんだ。」という受け取りになりがちだが、今日の議論が活かされる形に工夫してほしい。

委員 エイジフレンドリーシティは、横文字で高齢者にわかりづらい点は否めない。秋田ならではのネーミングを考えたらどうか。それをパンフレットなどにも活用すれば、浸透しやすい。ネーミングも公募にすれば、市民が参加し親しみを持ちやすくてよい。

会長 パンフレットについては、案を出し少し前へ進めたように思う。計画もパンフレットも同じで、できたものを示され一緒にやりましようと言われても、市民は関心を示さない。計画策定の過程に関わることで、関心も高まるし、担う部分も出てくる。プロセスに参加することで、プロダクトがより身近なものになるので参考にしてほしい。

事務局 了解した。

( 終 了 )